Y. M. 英語英文学科·2年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

高校時代、英語コースで聞く・読む・書く・話すの英語 4 技能を 3 年間集中的に学びました。 レシテーションコンテストやディベート大会等、多数のイベントを成し遂げたことで、英語 を使って自分の意見を周りの人に伝達するということに、自信とさらに深い興味を持ちま した。また、家族や学校行事で海外旅行をしてきた経験から、日本と外国の相違点や関連性 を自分の目で見る、肌で感じることの重要性を確信していました。より専門性を持って英語 や欧米の文化を学びたい、自立心を持って行動できるようになりたいと考え、1 年間の協定 留学を大学生活における一番の目標にし、入学当初から留学をメインに考えた履修登録や、 国際課主催の留学関連イベントへの参加、TOEIC・IELTS 等の英語試験を意識していまし た。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

大学で受けられる英語試験はできる限り前もって準備し、毎回自己ベストを得点できるように工夫しながら勉強しました。私は TOEIC、IELTS、TOEFL ITP テストの公式問題集を遅くともそれぞれ受験 1 か月前には解き始め、苦手なパートはその部分専用の教材を使って克服しました。何度も問題を解いては間違いを確認・復習し、問題パターンを掴むことや時間配分の感覚を身につけました。 1 年次の夏休みには、同女が開講していた TOEFL CAMP に参加し、テスト問題の形式や傾向を教わりました。この合宿では、共に切磋琢磨しながら留学を目指す多くの仲間と出会うことができ、英語学習におけるモチベーション向上にも繋がりました。また、私は英語で話すことが大好きなので、所属していた国際交流サークルやアルバイトで外国人留学生や外国人観光客に積極的に話しかけ、友達になったりガイド役になったりして、放課後や休日でも意識的にネイティブスピーカーと英語を話す機会を作りました。これは簡単なことではありませんが、自分の可能性を伸ばすチャンスは意欲と挑戦心次第で増大します。彼らに出会うまで知らなかった海外の文化や、逆に今まで気づかなかった日本の魅力を発見する中で、同時にコミュニケーション能力も養うことができたので、選考の面接時にははっきりと留学に対する自分の思いや意見を述べることができました。

③ 留学決定から出発までの準備期間

留学決定後は、ビザ申請、予防接種、クレジットカードとディビッドカードの作成、携帯電 話の休止手続き、留学先大学の仮履修登録など、準備することが多く大変忙しかったです。 ビザは、インターネットで調べて自分で申請出来ると聞いていましたが、時間短縮のため資料作成は業者に依頼し、大阪の在日米国大使館で面接を受け取得しました。予防接種については、要求されたワクチンの種類が多く、日本では珍しいワクチンや数回に分けて摂取しなければいけないものもあったので、スケジュール管理が難しく病院側にも詳細を説明する必要がありました。留学先大学の国際課の担当者の方とは、時差を考慮しながらメールやスカイプで連絡を取り、授業や寮、現地での食事等の仕組みについて情報をいただきました。疑問点は質問すれば何でも答えてもらえたので、日本からの持ち物や特別授業の費用についてなど、不安なことは全て明確にするよう心がけました。総じて留学前準備は、何かと時間を要する事柄ばかりで、常に早め早めの行動が大切でした。秋スタートということもあり準備期間は猛暑が続いた上に、大学の普段の授業や課題、テストをこなしながら出発直前まで準備や語学学習をしていたため、身体のケアが疎かになり体を壊して入院してしまったこともありました。綿密かつ無理のない予定を立て、出発前は心身ともに万全の状態にしておくことが一番だと思います。

④ 現地到着後

同女から同じ大学に留学する2人と一緒の飛行機でピッツバーグ空港まで行き、そこで大学の国際課スタッフの方と神戸女学院からの交換留学生と合流しました。大学の送迎車で40分程の道のりを運転していただき、大学に到着しました。車から初めて見たアメリカ、ピッツバーグ市内の光景に感動したのを覚えています。学生課で留学生オリエンテーションと寮についてのファイルをそれぞれ1部ずつ受け取り、その日は荷物を片付けて休みました。数日後に3日間の留学生オリエンテーションに続いて約1週間の新入生全体オリエンテーションが開始され、入学式を初めとしてキャンパス内外ツアーやディスカッション、ビンゴ大会など様々な催し物が行われました。秋学期の本履修登録もこの時期に行いました。奨学金について必要な手続きや同女への到着報告も早めにしておき、授業が始まるまでになるべく落ち着いた環境を整えました。

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

Chatham 大学の ELP (English Language Program) は正規授業と同じ施設・環境で受講できます。教室は国際課や ELP の先生方のオフィスに近いことが多く、授業の前後に学習方法や課題についてなど、困っていることがあるとすぐに相談に乗っていただくことも可能で非常に便利でした。先生方は大変手厚く、生徒の質問や意見には必ず答えてくれます。さらに、ELP には様々な国籍の生徒が集まるので、お互いの国の文化について触れそれぞれの特徴を共有し合う、刺激的な時間を過ごすことができます。

◆ 授業内容、課題、試験

ELP の生徒は最初にクラス分けテストを行い、それぞれの英語能力に適したレベルの授業を受ける仕組みになっています。この時期同女から留学した私たち3人のプログラムには語学研修期間が含まれていませんでしたが、正規授業を受けながら同時にELPのAdvancedレベルのクラスも自由に取ることができました。私は秋学期にコミュニケーションの授業(Academic Communication)、文章構成の授業(Academic Composition)、アメリカ映画の授業(American Culture & Cinema)を履修しました。コミュニケーションの授業は主に講義、ディスカッション、プレゼンテーションで構成され、課題量は多く、成績基準に関しては特に話す力に重きが置かれていました。春学期にはピッツバーグの歴史や文化を学ぶ授業(US Culture - Pittsburgh)と、リーディングの授業(Academic Reading)をとりました。どちらも難易度はそれほど高くなく、クラスメイトや先生方と意見交換をしながら楽しんで知識を増やすことができました。しかし、課題量は多く、その結果リーディングの授業では速読力と単語力を習得することができました。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

キャンパス内には伸び伸びと学習できる環境が整っています。授業の教室は履修人数と授業形式によって決められており、多くても最大40人程度の少人数クラス制度です。図書館のパソコンルームは24時間利用可能ですし、貸切できる個人の自習室やグループワークが可能な部屋もあるので、課題や試験勉強を行う場所に困ったことは一度もありません。勉強に疲れたら、一息つけるカフェや、体づくりができるアスレチックセンターもあります。野生の鹿やウサギを見ることができるほど、たくさんの緑に囲まれた自然豊かな大学です。

◆ 履修科目

• Introduction to International Relations (POL104)

もともと国際時事問題や国際社会の組織に興味があったので、国際関係学を学びました。40 人程度のクラスで、授業は講義形式でしたが、生徒が次々に挙手をし、まるで自熱した討論 会のようになることもしばしばありました。政治学や経済学にまつわる専門用語を覚え、先 生のスピーディな英語について行くのは大変でしたが、テスト前には毎回クラスメイトと のグループ学習で効果的に対策をしました。戦争や貿易についての知識を得られて、非常に 面白かったです。

• Globalization (SOC0317PIT)

これは上記の国際関係学の応用として、Pittsburgh 大学で履修した社会学の授業です。 Chatham 大学生は、PECH という交換授業制度を利用し1学期に1科目、近隣大学の授業 を取ることができます。Pittsburgh 大学敷地内にある Cathedral of Learning という高い 塔のような建物の中で、政治社会学の観点からグローバル化とは何かを学習しました。講演 会や展示会など授業外のイベントにも数多く参加し、難民や生態系の変容などについて理解を深めました。

• East Asian Studies (HIS204W)

東アジアついて学ぶ授業です。個人的に中国、台湾、韓国、日本の歴史的な関係性に興味があったのと、アメリカ人学生のアジアに対する見解を知りたいと思ったので履修しました。 先生は大変情熱的な方で、日本人留学生である私を快く受け入れ、非常に親切にしてくださいました。レポートとリーディングの量は驚くほど多く、それと同時進行でプレゼンテーションなどの課題が次々と出され苦労しましたが、東アジア間とそれに関連したアメリカの過去と現在について深く考えることができました。

• Public Speaking (COM213)

学期中4回のプレゼンテーションを通じて、どのようにコミュニケーションを図るかを集中的に学びました。大らかで留学生に非常に理解のある先生が、常に授業や課題を気にかけてくださり、初めから最後まで大変分かりやすく最高の雰囲気で授業を受けることができました。この授業を通して、「人前で話す」ということへの意識が全く変わりました。

• Photography II – Introduction to Digital Photography (COM152)

写真撮影はもちろん、写真の編集の面白さに惹かれ、この授業を取りました。大学から一眼レフカメラを借りて、テーマに沿った写真を取り、専用の Lightroom というソフトウェアを使って編集します。毎週決められた枚数の写真を撮り、編集後の作品を皆で評価し合いました。カメラ初心者から上級者まで様々なレベルの学生が出席していたので、一眼レフの基本操作から細かなテクニックまで学べました。

· Aerobic Dancing (PED145)

体育の授業も受けてみたいと思い、なんとなく1週目の授業に行ってみるとすごく楽しかったので、秋学期とメイメスターに通算2回履修しました。音楽のリズムに合わせながら週3回体幹や筋肉トレーニングをしました。凄まじい筋肉痛に苦しみますが、元気いっぱいで明るい先生と友達と共に運動をして、笑顔になれました。

· Scuba (PED158)

秋・春学期通年で Scuba Diving のクラスを履修しました。日本の大学ではなかなか取ることのできない珍しい授業だと思ったので挑戦しました。安全で正しくダイブするための知識を講義とオンライン教材で得て、大学内のプールで実践練習をしました。決して簡単ではありませんでしたが、ユニークでアットホームな先生方とクラスメイトに支えてもらいな

がら、水深約10メートルの世界を楽しみました。

◆ 授業、レポート、定期試験

基本的に授業中は、たとえ講義形式であっても学生がよく発言や質問をします。日本人の学生よりも自己主張が強く、誰かが話している間も別の人がずっと挙手をしています。受け身に回るのではなく、何か一言でも発言するぞという気持ちで一回一回の授業を受けた方が良いです。理解できなかった部分はクラスメイトにノートを見せてもらったり、オフィスアワーを活用して先生に伺ったりしていました。レポート等課題の量は日本の大学より圧倒的に多かったですが、その分達成感が味わえました。定期試験の前になると、友達と協力して、図書館や寮のラウンジで寝ずに勉強した夜が何度もありました。

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

国際課主催の Conversation Partner Program という制度に登録し、アメリカ人の会話パートナーを作りました。彼女は水泳部に所属していて、私も水泳が好きなので、共通の趣味を通じて水泳部の友達がたくさんできました。私は水泳部員ではありませんでしたが、プールや食堂でコーチとも話すことができました。また、秋学期は International Club に入っていましたが、あまり活動はありませんでした。Pittsburgh 大学周辺にある Carnegie Libraryでは、土曜日に外国語の無料講座が行われています。私はルームメイトと何度か韓国語講座に出席し、履修していた East Asian Studies のレポートの参考にしたりしていました。

⑧ 現地での住まい (語学研修期間、正規科目履修期間) について

秋学期からメイメスターまでずっと学内にある Woodland Hall という4階建ての寮に暮らしていました。Woodland Hall は、図書館やカフェ、教会などに近く、大変便利な場所に位置しています。1階にはラウンジがあり、テレビを見たりビリヤードをしたりと誰でも自由に使える共有スペースになっています。キッチン、シャワールーム、トイレ、洗濯機、乾燥機など生活に必要なものは各階にそれぞれ設置されていたので困ったことはそれほどありませんでしたが、私の住んでいた階は比較的騒がしい階だったので、夜中のマナーなどについて度々会議が行われました。私は自炊をするよりも食堂に行って食事をとることの方が多かったですが、たまに週末に日本食を作って友達に振舞ったりしました。部屋割りはアメリカ人と中国人のルームメイトとの3人部屋でしたが、備え付けのトイレとシャワーを共有していたスィートメイト2人の部屋と繋がっていて、実質5人部屋のような感じでした。3人のルームメイト間で特に何も大きな問題はなく(いつも少し部屋が汚い程度)、約9か月間一緒に仲良く過ごすことができました。秋学期はまだ暑さが続いていたので、ルームメイトが持ってきてくれた扇風機が大変役立ちました。アメリカ人の子はアイスホッケー部に所属していたので、部活の忙しい時期は生活リズムの違いが大きく、あまり一緒に過ごす

時間がありませんでしたが、部屋で毎日のように英語やアメリカの文化をたくさん教えてくれました。夜にはアメリカ・中国・日本のそれぞれの国の事情を何時間も話し合うということもよくありました。中国人の子と、アメリカ人の子が出場するアイスホッケーの試合観戦に行ったり、3人で外食したりすることも多く、彼女たちとは本当に信頼し合える関係を築けたので、留学最後にそれぞれ別れる時は本当に寂しい気持ちでいっぱいでした。

⑨ 長期休暇の過ごし方

長期休暇には国内旅行をし、東海岸を中心に多くの州に訪れました。秋休みは4日間ほど NY を旅しました。タイムズスクエアを練り歩き、初めてブロードウェイミュージカルを鑑 賞しました。自由の女神を見られるクルーズにも乗り、世界最大都市のスケールの大きさを 目で感じることができて大変感動しました。Thanks Giving には、学校の近くに住んでい る友達から家族ディナーに招待してもらい、アメリカの特別な食事を味わうことができま した。また、その日の夜行バスで Washington DC へ一人旅に行ったことは後に大きな自信 に繋がる思い出深い経験でした。アメリカの首都を果たす計画都市ということで、ピッツバ ーグや他の州とは全く違った、どこか厳かで落ち着いた雰囲気がしました。 私はアメリカ史 が好きなので、国立公文書館にて「マグナカルタ」や「権利の章典」、「独立宣言」の実物を 見た時は、涙が出そうになりました。冬休みは18日間、アメリカ人ルームメイトが実家に ホームステイさせてくれました。Nebraska 州 Omaha というところで、アメリカ中部のロ ーカルな家族の暮らしを体験しました。ルームメイトのベビーシッターのアルバイトを手 伝いに行ったりもして、非常に貴重な時間だったと思います。温かい雰囲気でクリスマスを 迎え、たくさんのプレゼントをいただきました。春休みには、中国人ルームメイトと Boston・ Chicago 1 週間の旅をしました。 留学終盤の時間のある週末には、Philadelphia や Niagara Falls にも行きました。 帰国直前には、 Florida の Orland でディズニーやユニバーサルなど のテーマパークを楽しみ、最後に Miami のビーチで旅を締めくくりました。旅行では、教 科書や映像でしか見たことのなかったアメリカの歴史や文化、大自然を堪能することがで き、一瞬一瞬が本当に夢のようでした。費用はたくさんかかってしまいましたが、色々な州 を見比べながらアメリカという国を考え直すことができ、視野が拡大しました。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

特に何も行なっていません。

Ⅱ.留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

ルームメイトと過ごしたことが一番思い出深いです。最初はお互い緊張していましたが、だ

んだんと心をゆるして距離が縮まっていったことがすごく嬉しかったです。 3人とも国籍がバラバラだったことも、お互いの考え方や価値観を共有していく中で重要だったと思います。私は留学して2週間ほどで20歳の誕生日を迎えたのですが、その夜アメリカ人のルームメイトにアイスホッケー部のパーティーに招待されました。私のことをまだ知らなかった人も含め、パーティーに来ていた皆が突然誕生日をカウントダウンし始め、日付が変わった瞬間にお祝いソングを歌ってくれました。予想外の展開にすごく驚きましたが、それ以上に喜びが大きく、出会った頃から留学生の私が日々楽しめるように色々と考えながら接してくれていたルームメイトには本当に感謝しています。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

留学して最初の1か月間は、本当に分からないことばかりで、部屋で号泣することも何度も ありました。まず、言葉の壁です。私は大学に到着してすぐにリスニング力の無さを体感し ました。国際課の先生方や寮長からの説明についていけないことが多々あり、一気に自信を 失いました。新入生全体オリエンテーションの中に組み込まれていた人種や性別について のディスカッション (10人程度)は、一言も発言することができないまま終わってしまい、 非常に悔しい気持ちになりました。授業や日常生活は、最初は不安でいっぱいでしたが、 様々なイベントを通して友達が増えたり先生方とお話ししていく中で、だんだんと耳が慣 れてきて自然に会話やディスカッションでもスムーズにコミュニケーションが取れるよう になりました。もう1つ、どうしても辛かったことは、人種差別です。留学生活の中で一度 だけ、確実にアメリカでアジア人差別をされたと感じた出来事がありました。今まで日本と いう小さな島国で生きてきた中で、肌の色や国籍で悩んだことなどもちろん一度も無かっ たので、大変なショックを受けました。私はそれをきっかけに人種、民族、性別、国家など 様々な観点から平等という言葉について考えるようになりました。差別された人の気持ち は本当に差別された人にしか分かりません。自分は母国では得られない経験をするために ここに来たんだ、という強い気持ちを忘れないで、マイナスな出来事もプラスに捉えるよう に心がけました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

アメリカの交通機関はとにかくよく遅延します。私は日本に帰国してから、JR やバスの遅れに非常に寛容になりました。国内線の飛行機もよく遅れますが、ほとんどの旅行手段に使った高速バスに関しては、ちょっとした天候の変化やスタッフの手違いによって、何度もチケット代を返金されたり出発時間が変わったりしました。市バスも、時刻表通りバス停に来ることはごくまれです。タイミング悪く見逃さなかったら良いかな、くらいの広い心でしぶとく待つしかありません。キャンパス外に出かける際には、時間に余裕を持って行動するこ

とをお勧めします。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

Chatham 大学は自然豊かな大学なので、大変居心地が良かったです。少人数規模なので、 学内では1日に何度も同じ人とすれ違うことがあり、友達を作りやすい環境でした。また、 大学内にいる人は皆フレンドリーで、友達じゃなくても挨拶をしてくれる人が多いです。私 のように大規模な大学にもコミュニティを広げたい人は、交換授業制度を利用した Pittsburgh 大学の科目の履修登録が可能であることも Chatham 大学の魅力だと思います。 悪かった点は、日本人の留学生が比較的多く、英語のみの言語環境にすることが難しかった ことです。たとえ日本人同士で助け合うときでも、意識をして英語で話すなど工夫をしまし た。大学が小規模な上、日本人コミュニティができてしまうとどうしても頼りがちなので、 気をつけた方が良いと思います。

② 日本から持っていって、特に役に立ったもの

パソコンは必須です。現地の学生はノートを取る時もパソコンを開きます。学内どこでもWi-Fiが飛んでいるので、パソコンは必ず持参して日々の課題やレポートに励むようにしていました。シャンプーやリンス、化粧水などの日用品や生理用品は最初の2~3か月分程度を日本から持って行って、無くなり次第、現地の製品を色々と試してみました。冬の寒さは大変厳しかったので、ジャケットや厚手のコートなどの衣類をたくさん持参したことは正解だったと思います。突然寒気に覆われ、秋から冬へと移り変わり、雪がたくさん降ったので、焦って買いに行くことなく対策ができました。ただ、バスに乗って買い物に行けばコートなど暖かい洋服が買えるので、出発時に荷物になる場合はそこまで気にしなくても良いかもしれません。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

英語能力に関しては、リスニング力がぐんと上がったと感じます。普段、友達と映画やテレビ番組を観ていたので、字幕なしでも内容が理解できるようになりました。私は4技能の中でリーディングが一番苦手だったのですが、授業の予習・復習・課題をこなす上で常に多読を行なっていたので、一定量の英語のページは容易に読めるようになりました。読むスピードも上がったと思います。さらに、日本ではなかなか習得できないスラングや、生きた英語の言い回しが身につきました。何より、出発前よりもさらに英語が好きになったことは大きな財産です。

精神面では、自立心が備わり、家族に対する思いや将来への考え方が変わりました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学を目指したら、あとは一目散に目標に向かって努力するのみです。テストや選考は容易ではありませんでしたが、私は同じく協定留学や認定留学を志望していた同女の友人達に背中を押されながらこの素晴らしい機会を得ることができました。留学出発前や現地到着後は苦労することもたくさんあると思いますが、身の回りで動いてくださる国際課の先生方や、応援してくれる家族に感謝することを忘れないで、1日1日を大切に過ごしてください。

Ⅳ. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

英語と日本語を使いながら国際的に働ける職業に就きたいと考えています。これから就職 活動が始まっていくので、協定留学で培った国際感覚とコミュニケーション能力をアピー ルしていきたいです。

Ⅴ. 写真



姉妹のように仲良しだったルームメイト達です。この日はアメリカ人の子が所属する女子 アイスホッケー部の試合を観戦した後、リンクの上でアイススケートを体験しました。



Scuba Diving の授業で、水中カメラを使って撮った写真です。



この友達とは、11 月に行った Lady Gaga のコンサートをきっかけに仲良くなりました。後に毎月自身の出演する LGBTQ ショーに招かれるようになり、その度に自己を表現する大切 さを教わりました



ELI (留学生向け語学研修の授業) のフィールドワーク後に、クラスメイトとお昼ご飯を 食べに行きました。韓国、タイ、サウジアラビア、コンゴからの留学生達です。



Washington DC を一人旅した時に、連邦議会議事堂の前で撮った写真です。 白くて立派な外観に、アメリカの政治の中枢部を感じました。

N. S. 英語英文学科·2年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

海外に行くことや留学に行くこと自体を考え始めたのは小学校の高学年の時に見ていたテ ィーン向けのアメリカンドラマを見て、海外の文化、言葉など目に映るすべての異なった ものに強く惹かれたからでした。海外留学をもっと意識し始めたのは高校受験の時期から です。私には2人の姉がおり、2人とも私立の大学に通い、加えて東京で下宿をしていた ので両親の負担はかなり大きかったと思います。私はどうしても留学に行かせてもらいた いと思っていたので、なるべく両親の負担が減る形で留学のできる制度がある学校に行き たいと考えていました。できるだけ長く留学に、でも休学や留年にはならないように、そ してできるだけ出費の減るようにしたい!そんなときに見つけたのが同志社女子大学の協 定留学制度でした。アメリカ留学となれば、現地の大学にもよるが基本的に授業費など大 学に通う自体とても高額だったので私の家庭状況を鑑みると、同志社女子大学からの何ら かの金銭的なサポートがないと留学はできないと考えました。協定留学であれば同志社女 子大学の授業費を納めていれば留学先の授業料が免除になるのでこれこそ私の目指す留学 だと思うようになりました。大学に入学してから国際課に通うようになってそこで協定留 学について詳しく聞かせてもらったり、奨学金給付制度の存在も知ったり、実際に協定留 学で留学をした多くの先輩たちと話をしたりして、私はやはり協定留学が私のしたい留学 にあった形だと再認識することができました。特に私の目指していた学校(チャタム大 学)の内容では、協定留学で秋入学であれば語学学校に通う分の費用がなく、そして現地 の学生と受ける授業の機会が増えると思ったので、狭き門とはいうもののこの学校が自分 の目標と決めました。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

入学してすぐに協定留学のための応募条件を知りました。私は IELTS テストで勝負することを決めたのですが、当時そのテストについて何の知識も情報も持ち合わせていなかったので国際課を訪ねて色々な勉強方法を教えてもらいました。その中でテストのためにまず一番やってよかったと思ったのは IELTS 公式問題集という IELTS テストのための問題集です。この参考書でまず問題の形式や傾向を知れ、何のテストでどういった内容なのかを全く知らなかった私にとってはもってこいのものでした。問題だけでなく受験した人の声、アドバイス、細かな回答や使えるフレーズや単語など IELTS テストに役立つ様々な情報が満載です。もちろんこの本だけでは十分ではないかもしれないが 1 冊持っておけば

安心できて、おすすめです。勉強面では他に、Voice of America というウェブサイトを使って主にリスニングをしていました。海外の政治情勢、トレンド、ヘルスケアなど多岐にわたるジャンルからいろんなトピックが展開されています。短いものから長い話まで色々で自分の興味にあったものを選ぶこともでき、その上リスニングの速度も遅くしたり速くしたりできるので自分のそのときの能力にあった使い方ができる仕組みになっています。また同じようなサービスで、Pod Cast を使っていました。英語のラジオ、海外ニュースのCNNや英会話のPod Cast など短いものであれば3分の内容のリスニングを電車の空き時間、お風呂の浴槽につかっているときなどの隙間時間に聞くようにして英語が耳に慣れていくようにしました。また、同志社女子大学で設けられた英語上達のためのTOEFL Campや Chat Room などの機会を自主的に、なるべく多く活用するようにしていました。自分で勉強のやる気がでないときでもそういった誰かと学習をせざる得ない環境を自分からつくることによって、英語学習や英語を実践的に使ってみることができるというだけではなく、海外から来られた先生、また同じ留学をしたいという志をもつ学生と交流や留学に関する情報交換もできました。

③ 留学決定から出発までの準備期間

3月の前半に留学が決定してそこから8月の後半までの約5か月半は風のように過ぎてい きました!まずはたくさんの予防接種を打ちに病院へ行ったり、歯の検診に行ったりもし ました。そして私の留学先として決まっていた大学は出発前までのオンラインでの所々の 手続きが多く、便利ではあったが自分の学業成績や予防接種などの記録の添付など思った よりも時間がかかって大変だったなというのを覚えています。ビザの申請手続きについ て、私は申請からビザ面接の予約までオンライン上で自分でできると知り、自分でやって みたかったので自分でやりました。とは言うもののビザはアメリカに渡るための一番最初 の証明切符のようなものなので慎重に、そしてウェブサイトや動画の通りに進め、また同 じビザを持っていたことがあった姉からの助けや友達の助けも借りながらなんとかなりま した。また私はその当時2つのバイトをしていてどちらも京都の中心地に位置していたこ ともあり海外のお客様と話すことが毎日でした。私はその機会を十分に使いたいと思い、 自分の知っている英語をたくさん使っていったように思います。私はこういった場が学校 外での実践的な英語を使う場所だと思い積極的にバイトに出向きました。勉強面では、前 項目で述べたこと以外に特別新しい勉強はしていなかったと思います。まずは pod cast 上 にある様々な英語のオンライン教材をたくさん聞くようにしていたし、Voice of America なども多用していました。一番やって楽しかったのは洋画を借りて英語の字幕をつけて見 ることでした。だんだんと字幕が無くても聞けるよう数回みて字幕を消してみたりもした

し、洋画以外で私はジブリが大好きだったので音声を英語に切り替えてみたり、英語の字幕をつけてみたりととても楽しかったです。わからない単語やスラングは携帯で調べてみてノートをつけるようにしていました。

④ 現地到着後

私の感覚では、アメリカに着いたときちょっとした疲労感と自分の留学がもう始まってい ることの緊張と興奮が、入り交じっていたような気がします。チャタム大学に空港から学 校までの車を用意してもらうということになっていたので、チャタムの国際課の方1名が 私たちを温かく明るく迎えてくださり、そのあと大きいたくさんの荷物を背に車内で30 分程度揺られながら学校へ向かいました。そこからまずチャタム大学のオリエンテーショ ン用のファイルや自分の新しい寮の部屋の鍵をもらい、早速各部屋に行き自分の荷物を運 びました。私が初めて部屋を見たとき、広くて何もなくてすごく冷たい部屋だなという印 象を抱き、正直これから住んでいけるかなと不安になったのを今でも覚えています。ルー ムメイトはそのときおらず、どんな人たちなのかすごく心配にもなったし、部屋にはトイ レもシャワー室もなかったので共有のものを使いながら、少し落ち着かない気持ちでし た。翌日からの約4日間は、ファイルの中にあったスケジュール表通りたくさんの予定が 入っていました。オリエンテーションにはほぼ留学生しか集まっていなかったので、初め てそこでネパール人の女の子と友達になれてやっと嬉しいという気持ちを感じました。チ ャタム大学での学校案内、グループでの近隣散策、教授の家でのウェルカムディナーなど 様々なイベントが待っていました。かえってその忙しさで到着直後の少しの動揺を感じる 暇もなく、2日後にはルームメイトと対面でき、私と挨拶もしました。そのときルームメ イトが、いやだったら出て行っても気にしないからね、と言い残し部屋を出ていったとき 私には衝撃しか残らず、私は戸惑ってどう反応すればよいのかわかりませんでした。後に 気づいたことですが、ルームメイトが部屋を変えるのは起こりうることだったので彼女な りの気遣いだったのだと判明しました。ぎこちない会話で言葉足らずで私もどういう意味 か聞かなかったのがよくなかったですが今となっては良い思い出話です(笑)。

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

私は秋学期からの留学だったので語学研修期間という明確なものはなかったのですが、秋学期の授業は少しの正規の授業に加えまず ELI と呼ばれる留学生向けの授業を3つとりました。そこでライティング、スピーキング、プレゼンテーションやノートの取り方、アメリカの文化などを学んでいきました。先生方はとても留学生に親身で、質問しに行くたび 笑顔で対応してくれてとてもよい印象でした。またそのうちの2つの授業で日本人がクラ

スメイトの半分を占めるという環境だったので、大変良いとは言いづらいです。休み時間があると日本語を話す子たちもいて私としても歯がゆいものでしたが、他の留学生との壁をつくりだしているようで不愉快だったし、実際他国の留学生もいい顔はしていなかったように思います。それでも自分で英語を話せる環境をつくることは可能だったので、今しか出会えないような他の留学生となるべく話すようにしていました。

◆ 授業内容、課題、試験

· Academic Communication

主にプレゼン、notetaking などを学ぶ授業でした。課題は ELI の授業でも多い方で、先生の指定したある講義や Ted talk などのプレゼンのノートをとって、時々用意された質問に答えたりするというものが多かったです。試験は語彙、Ted talk などからのプレゼンを聞いて質問に答えるという形式でした。

Academic Composition

ライティングに重きを入れていました。先生がアカデミックライティングの書き方を説明 し、質問を随時してそれに応答してもらうことも多々ありました。課題はある記事を読ん で要約したりライティングを書いたりしました。試験は語彙、ライティングの規則、文法 など授業でやったことがかなり試されました。

· US Culture & Cinema

主に映画やアメリカのドラマを見ながらハンドアウトの質問に答えるという形式でアメリカの文化や歴史を学んでいくという楽しい授業でした。課題はほとんどなかったけれど、たまに誰かにインタビューして答えをまとめたり自分のお気に入りの映画を紹介する文を書いたりしました。試験は映画に出てきた語彙、台詞、役者などのマッチングなどでした。

• US Culture Pittsburgh

春学期にあった ELI の授業。おもにグループ単位で話すことが多く、グループワークも多かったです。ビデオをみてピッツバーグの歴史や特徴も学びました。試験は語彙、授業でやったことの確認が多かったです。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

とてもきれいで、アメリカの大学にしては少し小さめだが豊かなグリーンキャンパス。アパートメントは少しだけ歩く距離ですが、だいたい寮と授業で主に使う校舎は近かったです。私の住んでいた woodland hall という寮は図書館も、チャペルもクラスの教室からもカフェからも何もかもほぼ近いという立地に恵まれており、とても行き来しやすかったで

す。とにかく大学内はとても静かで安全で、とても安心できる場であったし、リスや鹿、 ウサギなどの動物もたくさん見かけてとても癒やされてました。春夏秋冬、すべて違った 雰囲気のキャンパスがありどれもとても美しかったです。

◆ 履修科目

Course listing をオンラインで見てまずは自分の興味のあるクラスをとりあえず紙にかき、どういった授業なのかは少しだけクラス説明のところに書いていたので、それを自分の言葉で一言二言メモしていきました。自分のとりたい、またとるべき授業が分からないとき、またクラスを絞れないときが秋、春学期ともにあったので自分の Academic Advisor に何回も面談を受けてもらいました。私が思ったのは、アドバイザーは生徒の声をよく知ってはいるものの実際に全部の授業を受けているわけでも何でも知っているわけでもないので、とても助けになったが聞くだけでは十分ではなかったです。やはり実際に興味のある授業にたくさん出たり、1回目の授業に出られなかったら教授にメールで事情説明してシラバスをもらったり次の授業にでてみたりしたのが一番良かったと思います。クラスの雰囲気、課題、スケジュールなどすべてを鑑みて実際に授業に参加して思ったのと違えば他の授業にするという心の余裕は必要で、1学期間、クラス選びに関して後悔しないようにしました。

―秋学期の授業―

Painting1

約75ドル追加でかかったが教室にある道具や絵の具はすべて使えました。教授から説明された1つのテーマを約2週間程度で仕上げていきました。その間教授と1対1で、どういう作品にするかを伝えたり不安な点があればアドバイスをもらったりしました。

• Introduction to German Language and Culture

言語のクラスは1単位は別でオンラインでの学習が入ってくるが、宿題は主に教科書の予習、語彙の定着、小テスト勉強などでした。授業は文法説明以外はほぼ簡単なドイツ語で進み、教科書の内容確認だけでなく、リスニング、単語の発音、会話練習などもしました。

• Scuba

約170ドルが道具借用、教科書代で追加でかかりました。授業はクラスセッション、プールセッションの二構成で、クラスでは scuba に関する少し難しい知識を学び、またオンライン上で済まさなければならない宿題もありました。実技は水面下で行われるので scuba や体に関する語彙を聞き逃さないよう必死でした。。。

―春学期の授業―

· African American Writers

チャタムで一番苦労した授業でした。主にアフリカ系アメリカ人の書いた作品についてかなりの数に触れました。教授が作品の重要ポイントに言及しディスカッションも多々挟まれます。予習はその作品のリーディングで大体毎回30ページで週末はライティングが入ることもありました。

· Public Speaking

苦労も多いが達成感も多い授業でした。月に2回ほど教授の指定した方法でプレゼンがあり、発表日までの授業は、教科書ベースの小テスト、即席スピーチやディスカッションもありました。予習は教科書を読んだりプレゼンに備えたりなど。

· Special Topics in Dance Hip Hop

とにかく体を動かすのが楽しいと思える授業。毎週の曲ごとに振り付けが変わっていくのでその日の授業の振り付けに頑張ってついて行きました。時々ある1曲を2週間かけてやることも。私は期末テストでダンスのパフォーマンスをしました。

Piano

追加で600ドル必要でした。。。私の教授はウクライナ出身の先生で、音楽知識も技術も教え方も全てが新鮮で、毎度要求される新しい楽譜もなにもかも楽しくて仕方が無かったです。最後は student recital でのピアノ独奏がありました。

-- Maymester の授業---

• East Asian Cinema

主に日本、韓国、中国の映画産業や文化に焦点が置かれていました。授業中に映画を見ることもあれば重要なシーンについてのディスカッション、moodle 上でのコメント、ミニレポートも多かったです。クラスで1人の日本人として意見を求められることも多々あったが、客観的に映画を通して自国やアジアの国々をさらに知れ興味深い授業でした。

◆ 授業、レポート、定期試験

3単位の授業は週に50分の授業を3回か75分の授業を2回という形が主でした。だからこそ授業の進度は速いし、課題をこなす量も多かったです。ついていけているのか分からないと少しでも思えば早めにオフィスアワーという時間を利用して teaching assistant や教授に質問して授業の内容確認をすることが私は必須だと感じました。週3回同じ授業があると遅れを取り戻すのは大変なのでクラスメイトに聞いてみたり早めの対応が大切でした。大きなレポートは中間か期末に出すときもあり、ある授業では response paper という質問に答えるような週末ミニレポートも多々あります。やはり定期試験のある月はテストもレポートも重なり図書館で徹夜することもあり大変な時期ですが健康管理が一番問わ

れる時でもありました。

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

春学期の最初にクラブを紹介するブースが外に設置されたとき、私はたくさんのブースに 顔を出しました。そのとき入ったのは International students club というクラブで、主に 留学生でクラブメンバーは構成されていて現地の学生とも交流を持つためのイベントがあ りました。最初のクラブ活動はカフェで顔合わせをして自己紹介をしたり簡単なミニゲー ムをしたりしました。その後はマシュマロを焼いて食べるというイベントや、各国のホラ 一映画の鑑賞会などに参加し、主に留学生との交流。時々顔を出すようになった11月を 過ぎた頃から私はクラブ活動に足を運ぶ回数が減っていったように思います。そのときは 学習、近隣へおでかけする時間などが多くなっていたけれど私はもっと自主的に活動的に 何かをしたいと常々思っていました。実はチャタムに留学し始めてすぐ、昔やっていた陸 上部に入りたいと思っていたけれど、秋学期から入部すると体力を戻すのに時間がかかる のはもちろん英語勉強、新天地での生活、クラススケジュールなどどうなるか全く何も分 からず慣れてもいなかったので、まずは自分の基本がおろそかにならないよう入部は断念 していました。それでも秋学期の自分の生活スタイルにも慣れ、自分の暇があれば学校の ジムで体を動かすようにしていたのでやはり陸上部に入部したいという気持ちが強くなっ て、11月後半にコーチとも面談して入部を決めました。過去に幅跳びをしていた経験も あり、私はジャンパーとして冬期休暇中の個人のメニューも教えてもらいました。冬休み 前に一度陸上部唯一のジャンパーと一緒にメニューをこなし陸上部についてたくさん知る ことができ、自分が何をすればいいのかわかり安心しました。冬休み明けからチームメイ トとの練習が本格的に始まり、勉強と部活の両立の大変さ、そして思っていたより肉体的 にも精神的にもつらいときがあったけれど、とてもよいチームメイトとコーチ、トレーナ ーに恵まれて1シーズン無事にそして楽しく終えることができました!

⑧ 現地での住まい (語学研修期間、正規科目履修期間) について

寮の部屋割りなど全てチャタム側で決められていたので現地に到着してからは自分の部屋はどこか自分の部屋じゃないような気がしてあまり落ち着く部屋ではなかったのに、不思議なことで1か月ともすると住めば都ですごく快適な部屋になっていました。とても理解のある優しいルームメイトと部屋を共有していたからというのも大きな一因です。もともと3人部屋の予定だったがなぜか3人目のルームメイトとは連絡すらもとれず結局広い部屋を2人で使うことになりました。そうと分かれば2人で近くの総合店にいってカーペット、部屋の装飾、ランプ、ライトなどお金を出し合って買いました。ルームメイトとも話すようになり、だんだんと自分たちだけの部屋になってきてそして自分らしい場所ができ

て嬉しかったです。部屋には窓2つ、2つのクローゼット、ベッド、机、衣装ダンスつきドレッサーもありました。ただキッチン、トイレ、手洗い場、シャワールームが無かったので全て部屋外にある共有のものを使っていました。自分たちで必要なものを買って補充し、維持していく必要はなかったので今思えばそれがとても良い環境だったと思います。食事は主に大学のミールプランを使うため、ダイニングホールに行ったり寮の隣にあるカフェを利用したりしていました。食事内容は専らバーガーにフライドポテト、野菜、フルーツ、アイスというかなりの量を食べていたように思うけれどそれは最初の1か月くらいの話で、徐々に飽きてきて、食堂には毎日行かずたまに日本食のレストランへいったり日本から持って来ていた日本食を食べたりもしました。結局ダイニングホールに行くときはチキン、ゆで野菜、フルーツ、たまにシリアルだけということも。この時からお米の大事さ日本食の偉大さを感じ始めていました。また私の住んでいた Woodland hall からよく使う教室までは徒歩3分ほどで到着。通学方法や時間、距離など全くといって良いほど考えなくて良い完璧な立地でした。

⑨ 長期休暇の過ごし方

主に旅行や友達のお家に泊まらせてもらうことが多かったです。アメリカには毎月といっ て良いほど何かの休日があったので、私としては息をつける時間を持てたりアメリカ文化 を知れるイベントなどもあったりしたのでとてもありがたく思っていました。まず最初に あった10月初めの秋休みを使って、中国人の友達3人と私ともう1人の日本人とでニュ ーヨークへの旅行。夜行バスで行く予定だったがバスがなぜか来ず5時間ほどの遅れから 旅行が始まりました。また急に決まった旅行だったこともあり行き先、行き方、ホテルな どトラブルも発生。他国で学生だけの初旅行というのもあり、私はその旅行でいかに計画 性やお金の使い方が大切か身をもって感じたので楽しくも少し苦い思い出もある学びのあ る旅となりました。特に大きなイベントとしてあげられるのはサンクスギヴィングデーと いう11月の祝日。私はルームメイトがお家に招待してくれたので学校から約6時間ほど 離れた場所で充実した休暇を過ごさせてもらいました。サンクスギヴィングデーの夕食は ルームメイトの知り合いのお家を訪ね、子供10人を超えるほど大きく賑やかな食事とな りました。ターキー、アメリカの家庭料理やパイ、そしてルームメイトのお母さんがフィ リピン出身の方ということもありフィリピンの料理も食べさせてもらいとても素敵な時間 でした。みんなで映画を見たり、ルームメイトの友達と会ったり、一緒に買い物に行った り、ルームメイトの両親の務めている大学でピアノを弾かせてもらったり本当に家族のよ うに接してくれて心が温まる思いでいっぱいでした。また冬休みの間は、私のタイ人の友 達のいとこがニューヨークに住んでいるということで、マンハッタンから車で約30分離 れた郊外で過ごすことに。ここでもそのいとこの方たちが初対面なのに期間中ずっと一緒 に行動したり見るべき場所や行くべきレストランに連れて行ってもらったりと本当に至れ り尽くせりで感謝の言葉しかありません。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

私が留学した当時私は2年生だったのであまり就職活動の意識はなくまた取り組みを始め ることもなかったです。しかしそれを意識せざるを得ない状況に出会うことが多々ありま した。というのは私の留学した時期には小さな大学のチャタムに合計で日本人が約20人 もおり、協定留学、交換留学など様々なプログラムでチャタムに留学している人も多く同 い年もいれば1つ上の先輩もいたからです。正規の授業で関わることはあまりなかったけ れど、International students club での活動、食堂や通りでのすれ違いざまで顔を合わせ る機会もあったので話すことも増えていき自然と仲良しに。まさか留学先でこんなに日本 人の人と友達になるとは予想外だったのでこれも何かの縁と思い、たまに会う自由時間で お互いを知るようになりました。そのとき3年生だった先輩たちが就活についてとても真 剣に、そして実際に留学先のアメリカでもアクションを起こして、ボストンキャリアフォ ーラムというものにも参加していたり SPI というテストに向けて勉強していたりと、まだ 私は大丈夫だろうと何も考えていなかった私に目を開かせてくれたような気がします。自 分も1年もない近いうちにこういうことをしないといけないというのを間近で見てそして 話を聞いて私にもようやく火がつきました。冬休み前から自分の将来、自分のしたいこ と、興味のある職業などをまた考え始め、そして自分のやりたいことは今しかできないか らやっていこうと思えました。陸上部に入ったことや、ピアノ演奏を再開し始めたのもこ の頃からだったと思います。

Ⅱ.留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

留学中は本当に楽しかったことでいっぱいだが、1つあげるとしたら始めに浮かんできたものは春休み中の陸上部の10日間合宿。まず陸上部は練習メニューやコーチたちの予定によって跳躍者と短距離走者、投擲、長距離走者と3つに分かれて練習していました。1月からチームメイトとの本格的な顔合わせや練習が始まってから、ずっと一緒にいたのは跳躍者、そして短距離走者、3人のコーチで合わせて約15人。練習を始めて約10日ほどで初の記録会を迎え、陸上部全員バスで移動し会場で初対面になるチームメイトも多かったです。しかし記録会で顔を合わせるだけでは長距離や投擲の人と話したり関わったりする機会や時間がとても少ないのをもどかしく残念に思っていました。それから約2か月

後のこの合宿が私の陸上そしてチャタム生活を変えました。まず合宿の3日ほど前に部屋 割りや予定表が発表され、私の合宿先でのルームメイトとなる子たちが、私が必要な荷物 や服を持っているか気にかけてくれ、一緒に買い出しに出かけたり、たまたま同じ寮の同 じ階に住んでいたことも幸いし一緒にパッキングや荷物チェックをしたりしました。私た ちの行く場所はサウスカロライナ州のマートルビーチというところだったのでコーチの配 車で移動したのですが、その間も音楽でのりにのっていたりコーチとくだけた話をしたり と普段見られないみんなの顔を見れて、話す機会も増え本当に楽しかったです。ホステル についてからはみんなでビーチに行ったり、食材の買い出し、日本料理を一緒につくった り、アメリカの流行りの番組を見たり、もちろん朝昼の練習をしたりたまにビーチでの筋 力トレーニング、アメリカンフットボールもしたりしました。夜の海は寒かったのでホス テルにあるホットタブで初めて話をするチームメイトとも一緒に入り、くつろぎました。 合宿最後の2日間は大会で、私は怪我のために出れなかったが全チームメイトやコーチと も話しをするチャンスが合宿で増え、陸上部が私にとって少しずつ居心地の良い場所にな り始め、大会で自然と競技中も応援ができました。私だけでなくみんなチームとしてすご くいい雰囲気になっているのがわかり、私は友達の輪がひろがっただけでなくこのチーム にもっと貢献でできるように頑張っていきたいと決意を新たにしました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

まず苦労したのは1月。陸上の毎日練習に加え週2日のシャフト等、また週末遠征しての記録会、久しぶりに本格的にスポーツをしたためか体の怪我にも見舞われトレーナーさんのところへ通うという嵐のような1か月でした。春学期の新たな授業スケジュールにピアノの授業もあったので練習をする時間、そして宿題をする時間で1月は一瞬で過ぎ去りました。私は自分で選んだことだったから忙しいのは分かっていたし、後悔は全く無かったが、初めての生活に慣れるまでのこの1か月が肉体的にも精神的にも苦労しました。精神的に苦しかったのはチームメイトとの会話やコーチの練習メニューの指示の速さに理解できないことでした。チームに留学生も友達もまだいなかった当時、周りの言っていることを聞き取れず、自分の言いたいこともなかなか言えず、育った背景の違い、言語の壁をひしひしと思い知り、悔しすぎて自分の不甲斐なさを感じていました。また、陸上生活での合宿前の記録会で腰を痛め合宿が終わるまでそれをひきずって、みんなと打ち解けてきた合宿後半の大会でも欠場したので本当につらかったです。心はやる気ばかりなのに自分がやってきたことの成果をだせず、スポーツを100%の力でできないという不自由さにとても苦しみました。授業については、ScubaとAfrican American Writers で何度か心が折れそうでした。Scubaでは実技の前に専門的な知識も必要なので、教室でまず説明が必要

なセクションを教科書にのっとって進められました。scuba は週1回で1単位のクラスだがトイレ休憩挟んで約3時間ぶっ通しなので、意味の分からない単語が1つ出てくるとまたすぐよく分からない単語が出てきたり、インストラクターの話すスピードが速かったりと本当に脳がストップすることが多く、全くついていけない3時間のクラスセッションはとても苦い思い出。African American Writers でも同様に、1月の初めは現地学生のディスカッションの波に押され、全く乗れず意見を求められたときに何も言えなかった時がありとても悔しい思いをしました。教授は大事なこともさらっと速く次々に話すのでメモをとる時間に忘れてしまうことが多くついていけてないと思うことがあり、それが私をさらに焦らせました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

私は Conversation Partner というチャタムが企画している会話ボランティアに参加して いました。留学生なら主に英語の会話上達、現地の人は学びたい言語や知りたい国ににあ わせてその言語が母国語の留学生とペアになるというもの。日本人の祖母を持つ子が私の パートナーになり、運良く息の合う子だったので近くに遊びに行ったり、部屋に行った り、クリスマスはお家に招待してくれたりもしました。私のパートナーは家庭状況につい てたまに話すことがあったのですが、お母さんと昔からうまくいっていないということが だんだんとわかってきました。アメリカではステップファミリーがいるというのは多々あ ることらしく、その子もそういう状況でした。いつも実家には帰りたがらず、精神的にも とてもつらそうでよく学校のカウンセラーに通っていました。彼女はとてもつらいことの はずなのに友達として本音で自分の全てを話してくれたので、色々な過去に驚いたが信頼 されているからこそ話してくれているとも思い嬉しく思いました。また、ある先生たちは 授業中ではないもののトランプ大統領を批判するようなことを私を含め生徒たちの前で言 っていたので吃驚し、意外と政治はオープンなのかなとも思ったけれど、チャタムのよう な Liberal を掲げる大学内でもそういった光景はやはり見られるのだなと思いました。町 の景観について驚いたのは、大学を出た近くの歩道などはゴミが落ちているのをよく見か けました。日本ではあまり見かけないが、道ばたでしかも私の目の前で飲んだペットボト ルを道路に捨てる人もいて私を驚愕させました。また反対に、靴が落ちてようと携帯がど こかに落ちていようと、それを最初に見つけてとった人がその物品の所有者になるという 考え方があるらしいので、自分の落としたものはまず見つからないと思った方がいいと、 私が携帯を無くしたときに言われ、たとえようもないほど落胆したのを覚えています。食 べ物に関して1つ驚いたのは、知ってはいたがみんな飽きないほど本当にピザが大好きな のだとあらゆる場で感じました(笑)。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点は、チャタム大学がピッツバーグという大学の多い町にあるということです。 チャタムからは近い順に Carnegie Mellon University、University of Pittsburgh などチ ャタムとはまた違う雰囲気を見ることができます。大学によって持っている強みが違うよ うに、スポーツに力を入れている大学、大きな規模の大学、エンジニアや看護の教育がよ り整っている大学など様々。大学町ならではで、ピッツバーグには本当にたくさんの人々 がいて色んな出会いがあることも魅力の1つだと思います。留学生であったり、色んな国 籍の住人であったりととても多様な文化や人々が混在しています。実際にチャタムから徒 歩圏内で日本食のレストラン、アジア食品店、メキシコ、韓国、インドなどの他国の料理 店があり、カフェもおいしいアイスクリーム屋さんも多く、他国からきた人々にとって困 ることはあまりないように思います。チャタム大学はやはり他の大学と比べて少人数の私 立大学なので、教授との距離も近く、質問もしやすいので留学生にとってもとてもいい環 境が整っています。悪かった点を1つあげるならば、小規模の大学の割に日本人の留学生 の割合が多かったことです。ELIの授業で半分日本人で占められることもあったので他の 国から来た留学生が居づらい環境になっていたのではないかと思います。私はダイニング ホールやカフェに行っていたとき、あまりにも日本人同士で何をするにもずっと一緒にい て日本語を話している子たちがいるのを何度も見て、なぜだか自分たちから現地の人と壁 を作り出しているように見えて、現地の学生からしてもちょっと変な空間だったと思う し、同じ日本人として少しのもどかしさと残念な気持ちを抱きました。日本人の友達がい たことで助けられたこともあったし悪いことばかりではないけれど、一緒にいすぎるのも どうかなと思いました。私は会話するのに自信が無かったし、もっと知らないことを知り たかったので、留学して自分から現地の人ともっと話す機会や友達になる機会を積極的に 探し活用していたし、それが功を奏したと思っています。そういった私と思いが同じよう な子がいれば、日本人の割合が多くても結局は自分がどう動くかなので、不可能なことや 制限されることはあまりないのでそんなに気にすることでもないかもしれません。

② 日本から持っていって、特に役に立ったもの

- ・まずはノートパソコン。日本から持参して本当に必要なものだったといえます。現地の 学生は入学とともにノートパソコンを提供されているのでノートパソコンはみんな持って いたこともあり、授業中に使うことも多い。チャタムの図書館や至る所で使えるパソコン は置いてあるがやはりノートパソコンの重要性は一番。
- ・これは役に立ったというよりも私の反省点から思うことなのだが、渡航する前に一番私

が気になっていたのが携帯のことでした。アメリカで安い携帯の本体を買って私の姉がアメリカで使っていた Tmobile というアメリカの会社の SIM card を入れて使うということに。また私は留学中にきれいな画質でたくさん写真をとりたいと思っていたので日本で2か月使っていた iPhone をカメラ機能としてだけで使うつもりで持って行きました。アメリカで電話等が使える携帯とカメラ専用の iPhone の 2 台持ち計画。しかし当初の予定がiPhone が盗まれてしまったことにより台無しに。アメリカで安い本体を買うと必然的に悪い画質になるので結局日本製ソニーの 2 0 0 ドルほどの本体を買って SIM card を入れて使っていました。今思えば 2 台持ちは無謀で、1 台の iPhone を SIM lock 解除の状態にし、SIM card を入れるだけでアメリカでも使えるよう前々から考えておくべきだったと思います。

- ・私が100均などで買っていた日本のお土産シリーズがあらゆる場面でとても役に立ちました。千代紙、だるまシャーペン、ふせん、ふろしきなどなど100均のかわいい小物などがどこか友達にお世話になったとき、日本が好きという友達にあげると本当に喜んでくれました。これらはピッツバーグでは手に入らなかったので持っていくことをおすすめ。
- ・あと1つ率直にあげるならば、自分に合った生理のナプキン。軽いしそんなにかさばらないだろうとスーツケースにつめこんで持って行きました。アメリカのナプキンはあわないものもあると聞いていたのでおかげで1年間困ることも買うこともしなくてすみました。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

現地に着いたときの私と日本に帰国したときの私で違うと思うことは、何でもやってみるという気持ちがさらに強くなりました。もともとそういう考え方ではあったが留学先で今しかできない、という意識を持って行動するようにしていたので自分のしたかったことはほぼ実現できたと思っています。何でもやってみる行ってみる話してみる、というそういった心のゆとりと前向きさを大切にしたことによって、思いがけない出会いや、かけがえのない人とのつながりを生み出すことができた気がします。語学力について私が一番思うのはスピーキング力とリスニング力は確実に伸びたと感じます。やはり会話の要は聞いて話してのキャッチボールなので、毎日英語を話す環境にいること、会話のスピード感などそれに慣れようと自分も必死になっていたからです。アメリカにいて何か心配なことがあるとルームメイトと話したり誰かに相談したりして解決しようとしていたし、また授業で分からないことは誰かに聞いたりオフィスアワーを活用して質問したりしたし、そういったことも今考えると当たり前だったのかも知れないが自分1人で抱えるより、どうしたら

よいのか分からないという意思表示や誰かを頼るということも時には必要なのかなと考えるようになりました。また私はもともと人前で話すことが得意ではなかったが、public speaking というあえて苦手としていたもの、克服したいことに挑戦しました。不安はあってもいざ乗り越えてみるととても充実し楽しい授業だったとも思えるし、やってみなければ分からないというのはこういうことだと感じました。私の強みは何かというものを考えたとき、いい意味での図太さと粘り強さは誰にも劣らないということなのではないのかと思います。一度始めたことはなんとか最後までやり遂げたいということ、そしてこの先何かつまづくようなことがあってもなんとかできるだろうという自信も確かなものになった気がします。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

私は小学校の高学年のときから海外に行きたいという気持ちを抱き始めていました。高校 受験をするときからもう大学で留学というのは夢ではなく目標になっていたので、その思いのまま1年生の春から狭き門の協定留学を目指し、留学するという長年の目標を達成することができました。しかし大学受験と同じで学校に入学するのがゴールでないように、留学中に自分が何をしたいのか、どうしていきたいのかという気持ちを忘れないでほしいと思います。私の座右の銘は「一生の後悔より一瞬の勇気」で、したいと思ったことには果敢に飛び込んでいきました。長年夢に見ていた留学というものは長いようであっという間の9か月でしたが私の人生を語る上でなくてはならない大きな存在となりました。留学をして後悔することは無いと思うので今頑張って留学先で思いっきり楽しんでください!

Ⅳ. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

現在3年生で就活も間近になり自分の将来について向き合っているところです。はっきりとした夢はまだ見つかっていないのですが、留学先で自分のしていきたいことが少しずつ見えてきました。自分が昔から好きだったスポーツ、音楽、映画、言語などは、私の人生で切っても切り離せないので、自分の好きなこととやりたいことをこれから仕事にしたいものの両方を踏まえてもっと模索していきたいと思ってます。また私は英語の勉強はもちろん続けていくのですが、もともと外国語に興味があったのでドイツ語の勉強など他の言語学習ももっともっとしていきたいです。

Ⅴ. 写真



これは春休みの陸上合宿でとったときのものです。後ろの2人はホステルでのルームメイトでこの合宿をきっかけにとても仲良くなりました!これはお土産を買いに来たときの1枚。



これはサンクスギヴィングデーのときの写真。一番前の左の子が私のルームメイトでした!ルームメイトの家族とお家で一枚!



言語クラス別でのカラオケ大会のとき。私たち3人はドイツ語のクラスメイトでした!2 人ともドイツ語の上級者でよく助けてもらっていました!



トレーダージョーズへのバスがくるまで待っていたときの1枚。中国人の愛らしい女の子 で私のかけがえのない大好きな友達です。



三段跳びガールズ。この2人と練習できるのが本当に楽しかったです!これは他校で開かれた記録会のときの様子。

K. T. 英語英文学科·2年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

英語が好きだったのと親戚が海外で働いていたため、海外に対する興味があり、いつか留学してみたいという思いはずっとありました。初めて海外に行ったのは高校生の夏休みです。私は高校生の時にイギリス語学研修プログラムに参加しました。2週間というすごく短い期間でしたが、とてもいい経験ができ、それに参加したことがきっかけで、大学生になったらまた違った英語圏に行ってより長い期間留学して、ネイティブの友達を作り、もっと英語が話せるようになりたいという思いが強くなりました。そして大学に入ってから留学に向けていろいろなことを調べて協定大学留学をしたいと考えるようになりました。同じクラスにも留学したいと考えている友達がたくさんいたので、一緒に国際課主催のイベントや留学説明会に参加したり、留学のシステムについて情報収集したりしました。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

出願するには TOEFL や IELTS のスコアが必要でした。その勉強のために夏休みに行われた TOEFL Camp に参加しました。TOEFL・IELTS に関する勉強を集中的にするのでとても役に立ちました。また今出川キャンパスで夏ごろ行われた IELTS 対策講座に参加して、テスト対策をしました。イギリス人講師の方にわかりやすく教えていただいて問題の傾向などをつかむことができました。また苦手なスピーキングのコツも教えてもらいとてもためになりました。土曜日や日曜日には参考書の問題を解いて、時間配分など問題に慣れるように練習しました。また、普段は週に一度ほど国際課主催の Chat Room や Speaking & Writing Support に参加してネイティブの先生と話す機会を増やしたり、自分の writing を訂正してもらったりしました。

③ 留学決定から出発までの準備期間

留学決定前同様、国際課主催の Chat Room や Speaking & Writing Support に参加しました。ビザの手続きは業者を介さず自分ですべてしました。難しいといわれますが、そんなことはありませんでした。ビザの面接も日本語だけでした。少し面倒で大変かもしれませんが、自分でできないこともありません。

④ 現地到着後

空港に到着すると大学の国際課の方が車で迎えに来てくださりました。空港から車で1時間ほどで学校に着きました。学校に到着するとすぐに寮の鍵や仮のIDカードをもらい、スムーズに手続きを行うことができました。留学生は現地の学生より1週間ほど先に到着し

て、留学生のためのオリエンテーションに参加しました。その後現地の学生が入学してきて、 全体でのオリエンテーションがありました。

⑤ 語学研修期間

秋学期からの留学だったので語学研修期間はありませんでした。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

比較的小さな大学なので移動が楽でした。特に私が住んでいた寮は、カフェの隣、授業の教室の前、図書館の近くだったのでとても過ごしやすかったです。図書館にはグループワークのスペースや、個人の勉強スペース、24時間パソコンが使える部屋などがあり、設備はとても充実していました。ダイニングホールは食べ放題システムです。食べ過ぎたときや、体を動かしたいときは、ジムも利用できます。周りの大きな大学よりも自然が多く、たくさんの野生動物を見ることができました。小さな大学なので友達もできやすいのではないかと思います。Student ID でバスが無料で使えるので、スーパーやダウンタウンなど行きたいところには大体どこにでも行けます。交通手段は徒歩、バスを使い、バスで行けないところや、バスの運行時間外はウーバー(タクシー)を利用しました。特に不便だと思うことはありませんでした。

◆ 履修科目

日本である程度決めていた自分が履修したい科目リストをもとに、アドバイザーの先生と 話し合って秋学期の授業を決めました。わからないことや不安なことを質問しながら親身 になって科目履修について相談できたので不安なく授業に参加することができました。

Academic Composition

日本でいう Writing の授業です。Academic な Writing の書き方を教えてもらいました。書き方のこつなど、とても丁寧に教えてくれて、自分のためになりました。

Academic Communication

日本でいう Speaking の授業です。プレゼンテーションが何度かありました。長いレクチャーを聞いて要約したりする課題もありました。またクラスでグループに分かれてディスカッションやワークをすることも多かったです。

· U.S. culture and Cinema

たくさんの留学生がとっていた授業で、映画をみて単語や文法、アメリカの文化を学びました。アメリカの映画について楽しく学べるおすすめの授業です。

• Introduction to Chinese Language and culture

中国語の授業です。日本と違うところは英語で中国語を学ぶところですが、先生は授業中8

割中国語をしゃべっており、文法などの説明は英語でした。中国や台湾に関する記事を読み、 英語で reflection を書く課題や、Writing(中国語)の課題がありました。中間、期末テストには Listening、Speaking のテストもあります。

Public Speaking

Academic Communication と違って現地の学生がとる public speech の授業です。大きなスピーチが4回ありました。スピーチの後は、クラスメイトへのフィードバックも行います。 小テストもあります。

· World History

先生はアメリカ人ではなかったので、英語の訛りがすごく聞き取るのが大変でした。週3回の授業にもかかわらず、毎回30ページほどのリーディングがありました。また課題や小テストが多くとてもしんどかったです。抜き打ちの小テストもありました。

· U.S. culture Pittsburgh

Pittsburgh の近隣についてグループで調べプレゼンテーションをしたり、いくつかの地域や建物の特徴や、歴史的建物などについて勉強したりしました。

Yoga and Relaxation

本格的なヨガのクラスです。ヨガをした後にみんなでディスカッションをすることが多かったです。ヨガは目を瞑りながらやるのですが、専門用語(体の部位や動きの名前)が難しくて何をしたらいいのかわからない時もありました。中間あたりに課題が出されて、クラスでディスカッションをしました。

Squash

スカッシュをして体を動かすクラスです。経験者はほとんどいませんでしたが、みんな上手 すぎてびっくりしました。最終日に先生の前でサーブや技など習ったことができるかを確 認する技能テストがありました。

Aerobic Dancing

本格的なエアロビの授業でした。休憩もなく50分間ひたすら体を動かし続けて、とっても しんどかったです。授業の次の日は必ず筋肉痛になり、ベッドから起きられなくなる日もあ りました。

◆ 授業、レポート、定期試験

小さな大学ということもあって、少人数のクラスが多かったように思います。わからないと ころはすぐに先生や友達に質問できました。定期試験はある科目とない科目がありました が、定期試験がない科目はその代りにレポートやプレゼンテーション、小テストがたくさん あったものもありました。シラバスに授業内容と評価方法が書いているので授業をとる前 に必ず確認しておいたほうがいいと思います。異なる授業のレポート提出が重なることも あるので計画的に進めることが大事だと思います。

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

International Exchange Club に入っていました。秋学期は International Students Club といってほとんどが留学生の集まりでした。秋学期から始まったクラブだったので、中心になってイベントを計画してくださるのも国際課のスタッフでした。グローバルミクサーと言って、それぞれの国の留学生がポスターセッションで文化などについて発表したり、ハロウィンの前の日にホラー映画パーティーをしたりしました。春学期は留学生だけでなく現地の生徒も少し増え、生徒中心でイベントを考えていくクラブとなりました。いろいろな国の音楽をかけてダンスパーティーをしました。

⑧ 現地での住まい(正規科目履修期間)について

私は学内の寮に住んでいました。部屋とルームメイトはこちらの希望を言うことはできず、レジデンスの方が決めて、メールを送ってくれました。ルームメイトのメールも送ってくれるのでやり取りはそれで行いました。しかし到着数日前にルームメイトが変わりました。何が起こるかわからないです。部屋によって大きさも設備も変わりますが、私の部屋はベッドと机、クローゼット、たんすが1人ずつありました。食事に関しては、寮に住んでいる人は必ずミールシステムに入るというルールがありました。食堂は食べ放題システムです。アイスクリームやデザートも食べ放題でした。ミールシステムは食堂でも、カフェでも使えるので、時間がない時やダイニングホールが閉まってしまったときにはカフェで使うこともありました。学校のアパートに住んでいると少し階段を上がって、教室や図書館などに行かなければなりませんが、寮はどの寮かにもよりますが、比較的学内の建物には近いと思います。

⑨ 長期休暇の過ごし方

10月ぐらいに一度1週間ほどの秋休みがあり、ナイアガラの滝に行きました。

秋学期と春学期の間の冬休みは、3週間ほどありました。そのうちの10日間友達と西海岸を旅行しました。3月にも1週間ほどの春休みがありボストンなどに旅行しました。長期休暇でも寮に滞在できます。基本現地の学生は帰省します。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

何もしていません。

Ⅱ.留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

課題などしんどかったと思うこともありましたが、基本的に毎日が楽しかったです。特に

Thanks giving day に友達が家に招待してくれて、お母さん手作りの thanks giving dinner をふるまってくれたことが思い出に残っています。普段アメリカの家庭料理を食べる機会がなかったので誘ってくれた時はとても嬉しかったです。誕生日にルームメイトがサプライズをしてくれたこともうれしかったです。誕生日を伝えていなかったのですごく驚きました。各旅行も本当に充実していて楽しかったです。特にメイメスター前にフロリダに旅行したのもとても楽しい思い出です。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

授業で自分の意見を言うことは慣れていないので、初めのうちはつらかったです。言葉の壁もあり、授業を聞いてついていくことが精いっぱいだけど、授業中に自分の意見も求められることも多かったので大変でした。授業形態が日本と違うので、普段あまり大勢の前で自分の意見を発することに慣れていないうえに、英語で求められるのは自分にとって挑戦でした。質問も答えが1つではないことが多いので、常に自分がどう考えるかをクラスで発表することが求められました。課題の量が多かったときは毎日図書館にこもる時期もありました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

まず基本的に時間にルーズだということです。バスなどの交通機関は日本のようにぴったりの時間に来ることはあまりありません。日本では入学した大学で4年間過ごし卒業するのが当たり前(主流)ですが、アメリカではトランスファーする生徒やトランスファーしてきた生徒がたくさんいて、逆に4年間同じ大学で過ごすのは珍しいことなのだと思いました(私の大学の場合だからかもしれないです。とりあえずChathamに入学して必要な単位を取得したら、隣のPittsburgh大学に移るという人が多かったです)。もちろん入学システムの違い(日本のような大学受験がないなど)も理由だと思います。紙の大きさが違うことにも驚きました。日本では基本A4サイズですが、アメリカではレターサイズが主流で、A4サイズの紙が大学にはなかったです。そして、みんなが違った意見・考えを持っていること(発表すること)。全然相手と違っていることでも、堂々と人前で発言する姿を見てすごいと思いました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

小さな大学だったので、少人数授業が多かったこと。先生との距離が近いので困ったことが あればすぐに相談できます。また国際課には学生スタッフがいるので先生が忙しい時など 対応してくれたり、前を通った時によく声をかけてくれたりしました。様々な国からの留学 生がたくさんいたのが良かったと思いました。しかしなかでも日本人の留学生の数は多いように感じました。

② 日本から持っていって、特に役に立ったもの

ノートパソコンは課題をしたり、日本とのやり取りをするのに使うので、必要だと思います。 また、旅行のためのホテルや飛行機のチケットを取るのにも使います。常備薬も日本のもの を持っていったほうが安心だと思います。洗濯ネットは売っていないので日本から持って いったほうがいいと思います。日本食も少量持っていきました。アメリカの食事に飽きた時 などに食べていました。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

語学力でいうとリスニング力は確実に上がったと思います。現地の同世代の友達と話すことで普段の会話でよく使う表現なども自然に学ぶことができました。もともと留学生と交流したいという意識は留学前からありましたが、帰国後は、同志社女子大学に留学している留学生にも私が留学先の友達がしてくれたようにしたいと思いました。より積極的に留学生と交流して自分の語学力向上に努めたいと思います。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

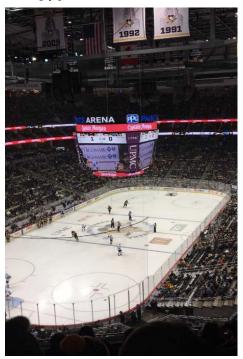
留学は日本ではできない経験や新しい発見をすることができます。楽しいことばかりではなく、つらいこともありますが、必ず自分を成長させてくれます。少しでも留学に興味があるなら、ぜひ挑戦してほしいと思います。

Ⅳ. 将来の目標

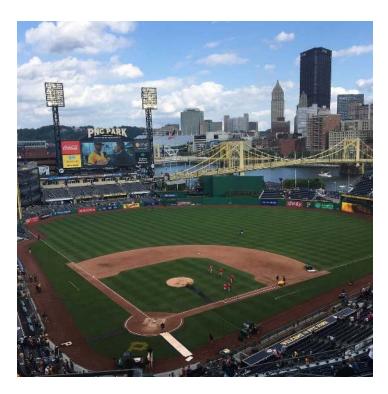
① 今後の進路、将来の目標・夢

これからももっと英語を勉強し続けていきたいと思います。まだ具体的な進路は決まっていませんが、この留学で経験したことを活かして海外に関わる仕事がしたいと思っています。

Ⅴ. 写真



Pittsburgh のプロアイスホッケーチーム Penguins の試合を観戦しに行った時の写真です。 チケットも人気ですぐ完売するのですが運よく見に行けました。初めて自分の目で見るプロのアイスホッケーの試合はとても興奮しました。結果は Penguins が勝ちました。とても盛り上がって楽しかったです。



友達と Pittsburgh のメジャーリーグチーム Pirates の試合を見に行った時の写真です。座 席から一望できる景色は最高でした。チケットは学校で安く購入できました。



初めての旅行でカナダのナイアガラの滝に行った時の写真です。カナダ側から見るナイアガラの滝は息をのむほど圧巻で、自然の力を感じました。いろいろな国からの留学生の友達と一緒に旅行ができていい思い出になりました。



近隣ツアーで North Shore という所に行った時の写真です。その地域の歴史や建物の特徴などを学びながら散策しました。ツアー後半は2チームに分かれ、留学生の友達と屋外アート展示を見に行きました。



中国語の授業で旧正月を祝った時の写真です。